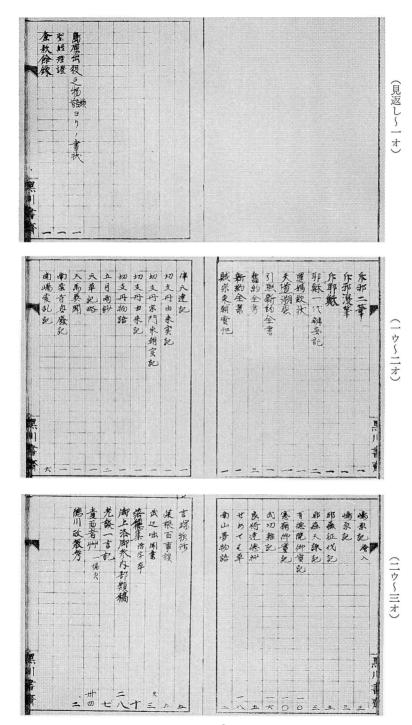
黒 『書 目

III 籍真 頼 録家 蔵 書 目 録 影 即 (八)



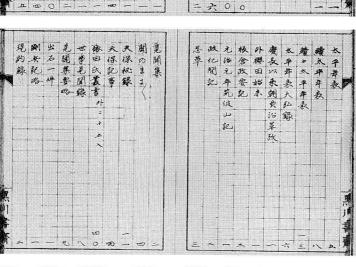
城 田 秀 雄



(五ウ~六オ)	(四ウ~五オ)	000000000000000000000000000000000000000	(三ゥ~四オ)
	果則需新		
赤龍四十六五箭	- 0	三有錄	高後來事辦考
古良上野以殿诗野内正頭殿一条同書	52	立 電最良好	<b>浩德</b> 集
	以蘇	三 天明大次	椅营犯錐録
<b>神預人十士親類書堂控</b>	n.	楊夢小彩	科信私選
石椒明傳	W. S.	五编集小司	岩網衣貼列集
養士夜討高名咄	立み	- 恵のよさ	岩淵夜話前集
老種義士中野寺氏文藝考	一一名弟山原澤秋荣 二	心煙果手前一名	<b>遠老物語</b>
赤穗蛇		六一大野鄉鉄	港德集
<b>建鼓後攀</b> 録	<b>元</b>	一松藤日記	桃原達中
赤種四十七士連	<b>松</b> 频	- 哎菜百枚	属士の煙
本德教在對治		紀炭言行	
義士題羊	4	给松風說	
人の鐵	史記被書	本邦續人	
我臣傳	7	銀連遺事	
赤穗監傷	五銀	尚林隱見	
亦極為人傳	五	成應業站	19 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
愛あみつらかとつ	四書	武造吧開	
鉄生記	子原十三年	お 世集事	
當世花寶則野信該	心息 美本	参考店建	
进代公 實裁 秘録	慶長月,丁月	見聞集	
	見り書覧	<b>有</b> 列	原川市

東百寺衛書





**町難 坂边 尊近** 

外外

鄉 注 故著

江都著聞集

斯蜜

仙屋支頂殺

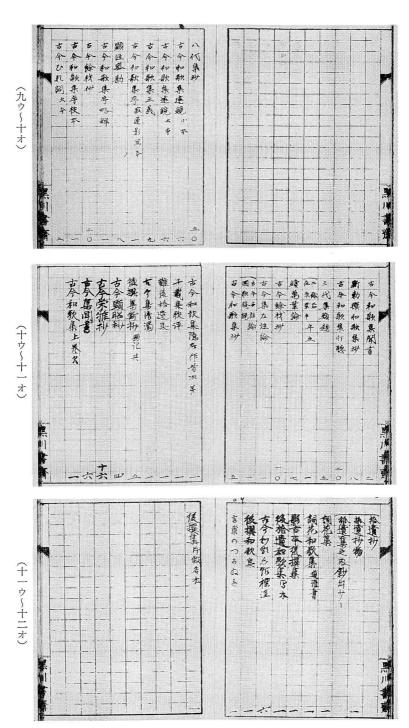
近 重 犯 縣

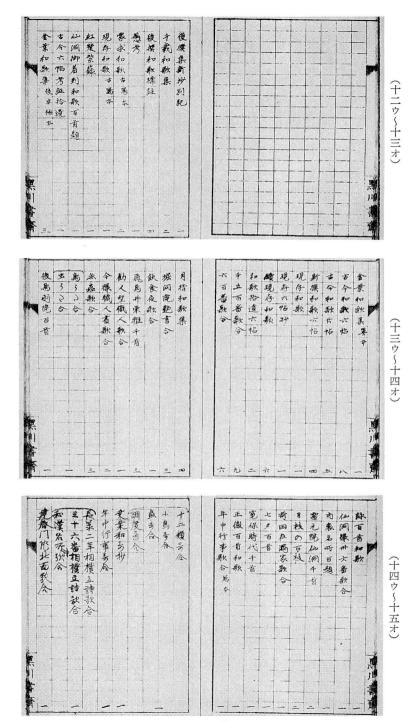
海防備輪

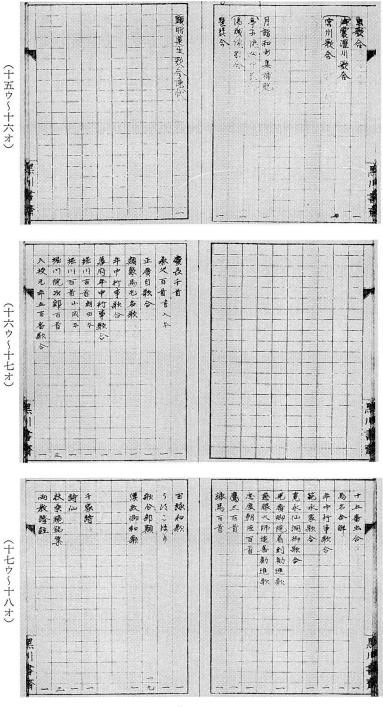
一

敵計十務該

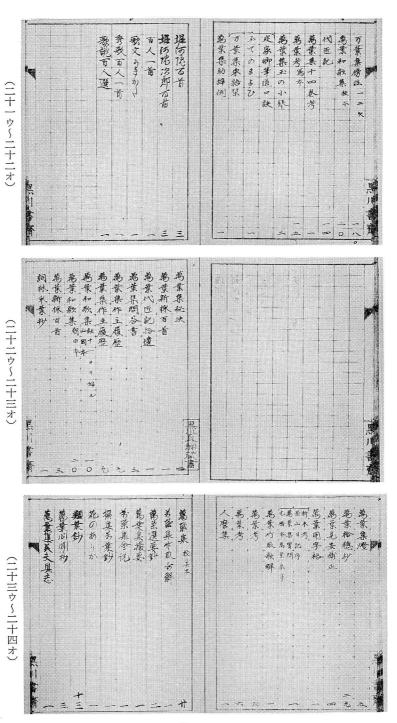
ハウ~九オ)

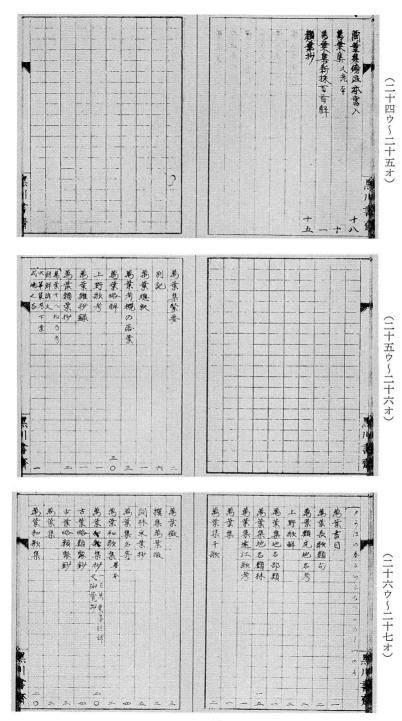


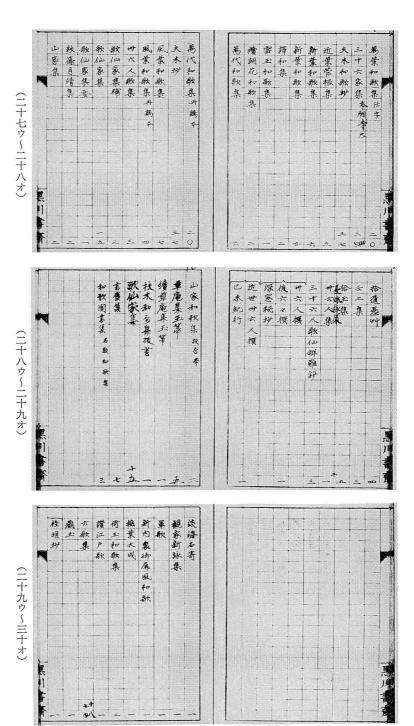


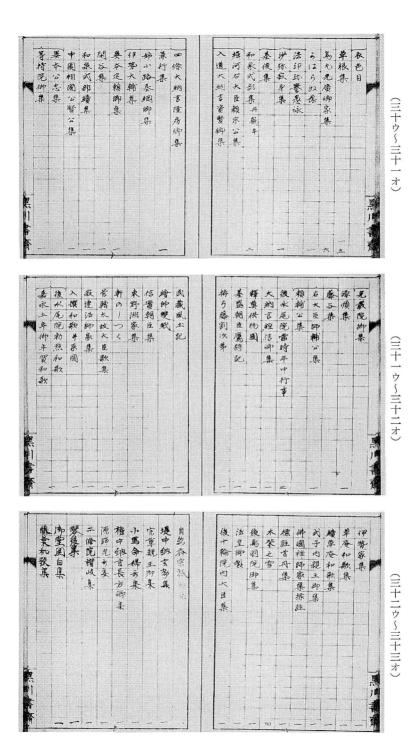


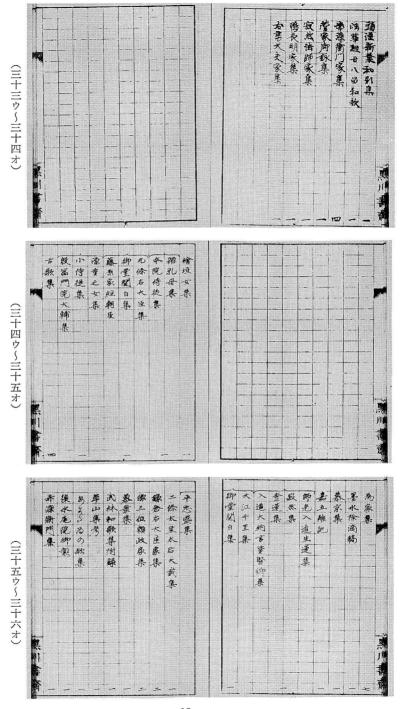
— 8 —

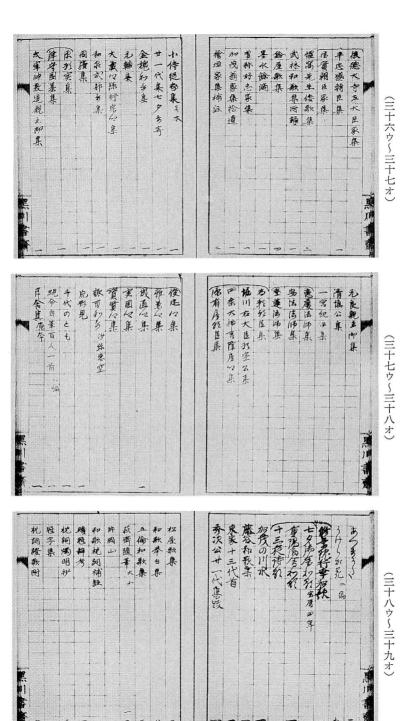


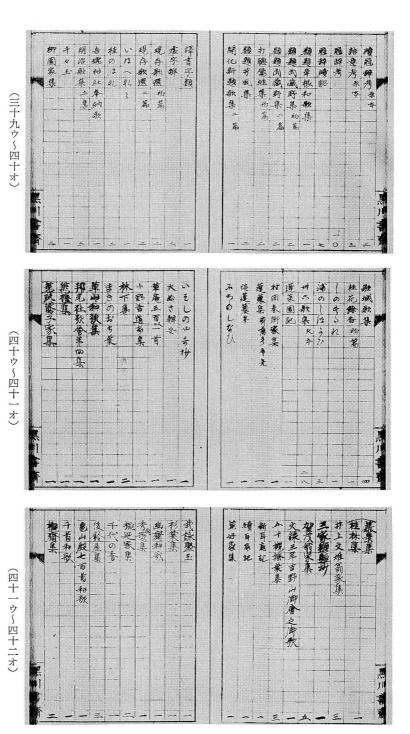


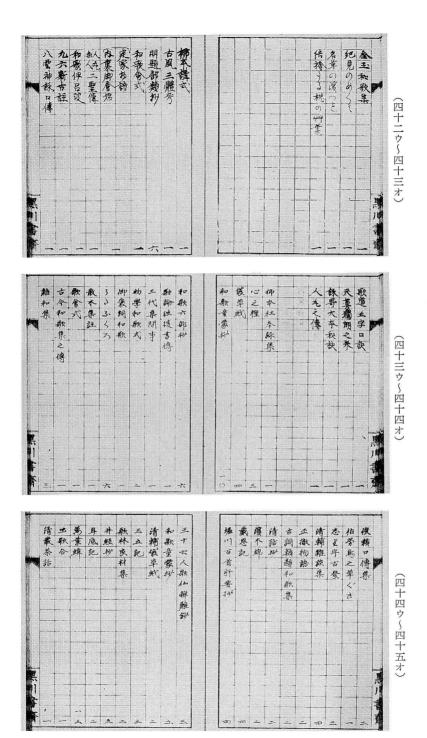




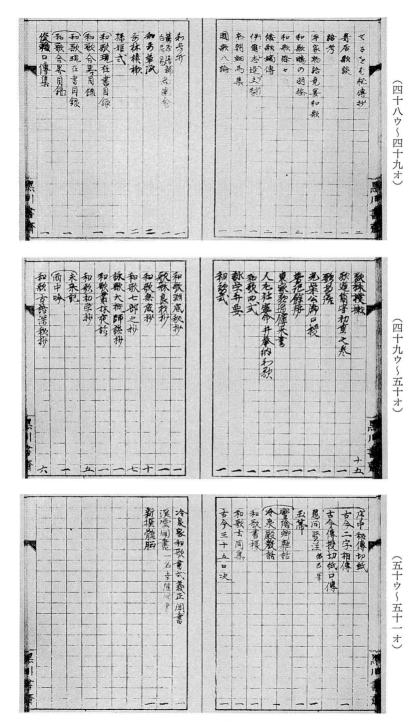


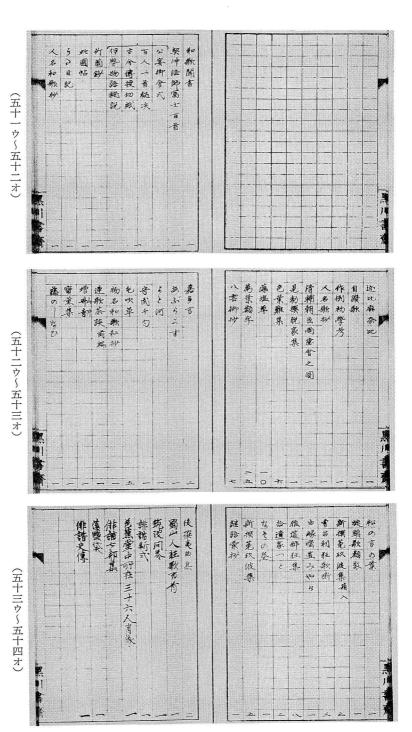


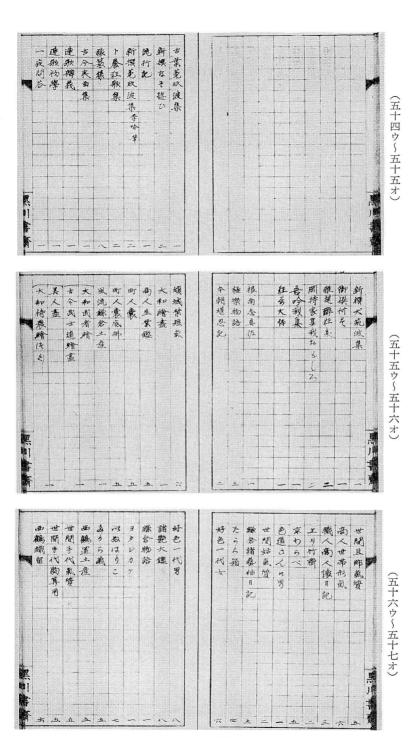


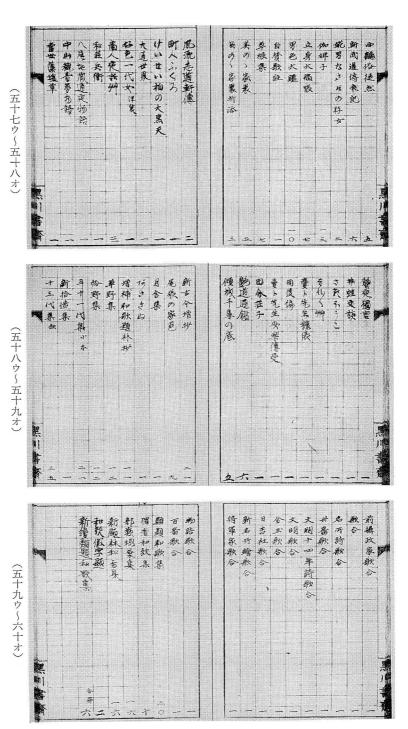


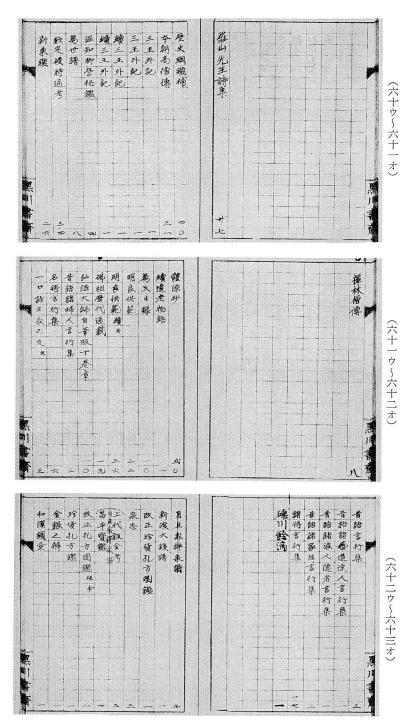
(四十五ウ~四十六オ)	1	新續古今東名序註	新古分真名序註	古今東名序註	原氏物館林與依歇	雅章即古野の記	白頸軟抄	後京極家百首歌合	今川不俊松出	今川月俊大草子	今川月版大車工	今川記	今門可後日記		和歌三式旗旗城	意.	和歌以手習	贖歌与抄	<b>美歌</b> 式	践谷雅記.	藏玉和歌集	
(四十六ウ~四十七オ)		和教道作法教書	自該方在小司子	本分集秋傳養書	名質わら 役対	国教八篇同斤非	達阿語	構道大意	寄居數徒 ·	八雪的抄的字并		宇比山小江	和學大概	枪目好	游牧	石上私辦言	草蚜集	比那能新語	三酸和新	古来風俗抄	西國寺殿惠百首	1
(四十七ゥ~四十八ォ)		達所們抄	是後聽抄	風格歌	一、國意考	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	俊歌图應抄	賴縣林良村	三網络抄	七人的語抄	和學八門	和教伊勢海	假在利五式	十一十分的我口傳之茶 ?	- 都草書法	考系入造成历文	和致知數基	異本定家卿和發式所不敢十所	新賀彩ライ	耳底部	三五記	







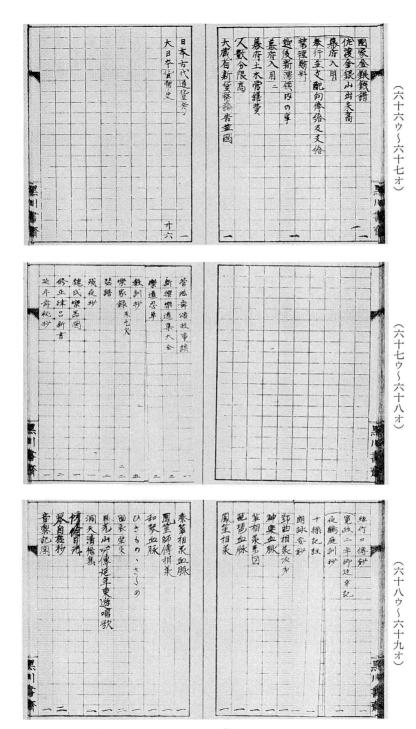


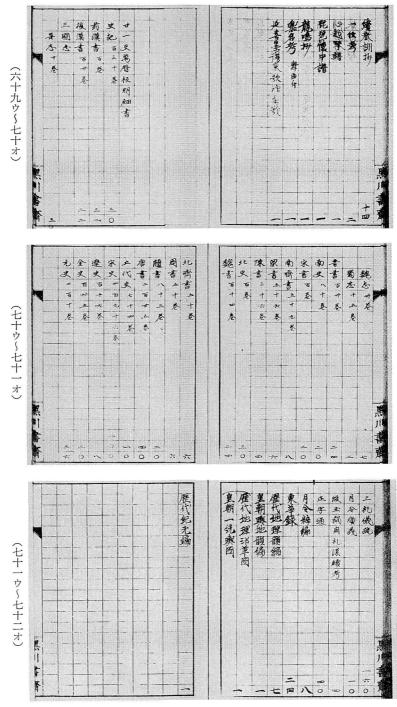


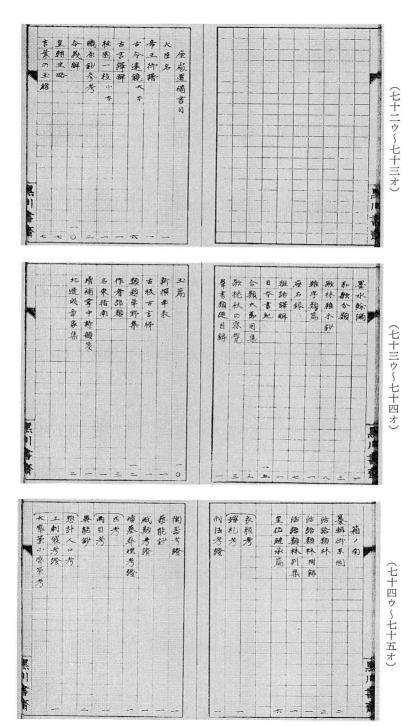
**—** 22 **—** 

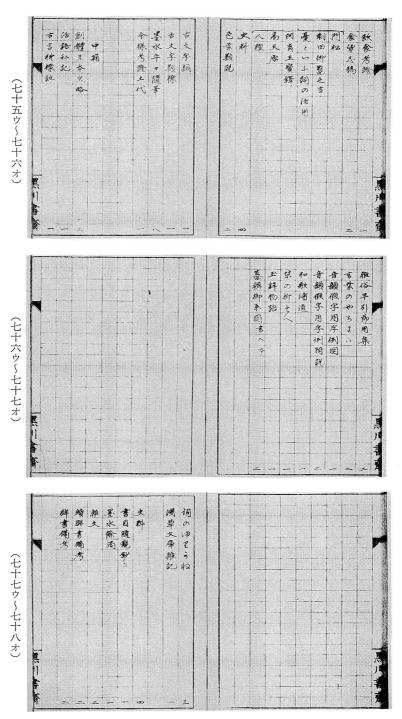
(六十三ゥ~六十四ォ)

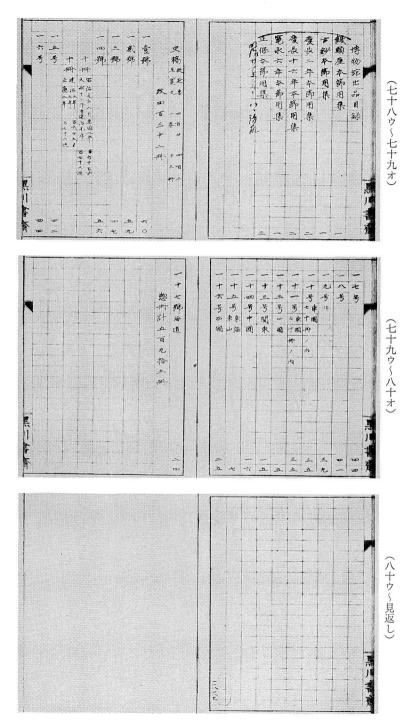
(六十三ゥ~六十四ォ)		改正孔方國鐵馬卡	古个泉質鑩	古今分量考	金銀圓録	<b>新進</b> 考	燕尾猿臂	泉	白銅鑄立方仕樣恨	鋳錢由緒書	奇鈔百回	寛政孔方鑑	西群錢譜	弄錢奇數後馬	弄錢奇遊	线範	新模泉譜	養貨幣價格表	金銀錢譜	續化爆顏克	化蝶類苑	
(六十四ゥ~六十五ォ)	東川 書稿	日本在全銀街大全一目表	一 道幣道外	1月1日前	丁發的軍長第	· 公文是可以是	三個通信	2000 新	展落住我村の柳州	となる	司人, 長克青寶木.	<b>本朝金銀鏡踏</b>	近年的来全銀本記	全語	金銀醬	金銀山敷岡移方園	三面雄鏡譜別本	西洋錢精板不	一中外錢文	一明治新撰泉語	小致足鑑	川書
(六十五ゥ~六十六ォ)		新兴古野僧所	古務價所後歸	古钱價所	他川氏貨幣志	新山移并形成改取一件		泉道分量茶	新電永泉譜	<b>德川氏黃秀志</b>	外東貨幣圈越	<b>全银镀</b>	通用全部清書行四	全報等值片達書	全親籍地名書	但捕州金銅山井寺社看記	<b>结化 虹</b> 類 充	御成泉奉北	<b>楊家珍數模</b> 状	電形珍銭略譜	台屬永模状	恩川富













方印を見ることができる。 下」の書外題をもち、 紙六十九丁、 黒川本の書籍目録は、 黒色罫紙十一丁の合計八十丁である。 内題はない。また、 本編「人下」の巻をもって全八冊の最終巻となる。本冊の表紙も他の巻と同じく「書籍目録 これは本目録が改編されたことによることはすでに述べてきた。使用されている料紙は赤色罫 巻頭にあった黒川真頼蔵書の長方印も押印していないが、二十三丁オにこの長 料紙には黒川書斎の版心をもっているが、丁付けはほどこされていな 人

いい

記 の顕著な特徴は見出だせなかった。 本稿を終るにあたり天・地 地 中の風土記 神社、 地下の軍記、人上の仏教、人中の物語、人下の和歌・万葉集などである。 人の蔵との関係で、 敢えて掲げるならば、天上の史誌・系図、 書籍目録全八冊を概観してみたが、 天下の随筆、 天・地・人各冊ごとにおける蔵書 地上の国史・音韻・文法 蔵の収集内容を理解 日

籍目録、 天の蔵 大日本府県志、 (上下) = 七三四点 親王家并門跡系譜、 七、 五四五冊 明珍系図、 都風俗化粧伝、 官職秘鈔、 有職懷中抄、 日本山海名産図絵、 **蒹**葭堂雜録、 西陸細見図、 硯鼠漫筆 博物館書目、 本朝書

するため、

以下に各蔵の点数と冊数および主な書名を連ねて参考に供

いしたい。

の緒変格弁、てにをは係辞弁、 地の 蔵 (上中下) 四 五三二点 真淵語意、 四 工芸志料稿本、 八六三冊 大八洲、 水鳥記、 日 稲生物怪録、 本書紀伝稿本、 本朝軍器考。 江談抄、 和 訓部類抄、 旅行用心集、 玉

日本百花写真図、 (上中下) 水産小学、 三、 五五六点 十王経、 一三、一七四冊 本草沿革、 本草綱目啓蒙図譜、 女中作法之次第、 安南史、 義満公直衣始記、 西洋紀聞 天児の巻、 小笠原流進退箇条、

の書名検索目録、また主題から辿ることのできる三十一冊の「書籍目録」 であり、 こうして見てくると「書籍目録 大綱目とみなされる蔵ごとの架蔵目録であると思われる。これを検索の手段から補うために「色葉書目」(全七冊 (天・地 ・人)」には もともと分類的な意図はなく、 が編纂されたとみるべきであろう。 資料の入手時における収蔵管理簿

すべく、 いが、 る売り立てで黒川文庫は完全に崩落していった。 している。また、かろうじて残った蔵書も戦後の混乱期には、 質 その蔵書の大半を焼失したことである。 学術的な機関に所蔵され、 量ともに誇った黒川文庫最大の損失は、大正十二年九月一日の関東大震災という未曽有の大地震で二つの土蔵 当該機関でまたは資料によって調査を行ったが、 利用に供されているものは左記の八機関である。 残されたもう一つの蔵も加えて太平洋戦争において、 このような成り行きを経た黒川文庫が巷間にどうあるかは全てを知らな 若干の差異もあるものと思われる。 古書店に渡さざるを得なかったことである。 なお、 蔵書の数量については正確を期 五千余冊を灰燼に帰 古書店に おけ が崩

東京大学	ノートルダム清心女子大学	国学院大学	慶應義塾大学	日本大学	明治大学	実践女子大学	〈所蔵機関名〉
11111111	一、〇八一	四〇八	三五	四八八	一、七九三	1110	〈点 数〉
五一七	二、三八七	七〇四	六四	一、一〇五	四、八五二	二、三五二	〈冊 数〉

宮内庁書陵部

二九

計

四

六六七

三九九

こここ

一二、三八〇

蔵する書誌類の再編成という視点から、この二点についてもいずれは取り上げておく必要があるものと考える。 冊)と「金石図書目録」(一冊) 本稿をもって黒川真頼家蔵書目録の「書籍目録」(天・地・人) を本学で所蔵しているが、これについて詳細に記されたものはない。 の紹介を終わる。 黒川本の目録は他に「色葉書目」(七 しかし、

くお礼を申し上げる。 た研究所長の野村精一先生に深く感謝の意を表すると共に、研究所の上野英子先生に多大なご助力をいただいた事に厚 本解題は年報の第八号(平成元年三月刊)から掲載を始めた。当時、 執筆の指針を示され、 掲載の機会を与えてくださ

## 注

- (1)一丁オ八行目 「語」を墨点で抹消し「頭」と訂正。
- ②四丁ゥ一行目 「慶長見聞集之」と朱墨で補記。
- ③二十一丁オ十五行目 「蜀山人」を墨の棒線で消去。
- 4)二十五丁オウ 黒色罫紙で表裏共に記載なし。
- 5二十七丁オ六行目 「和歌」を朱点で消去し「一名萬葉集註釋又仙覚抄」と朱墨で補記。

「本願寺本」と朱墨で補記。

冊数表示の「三」を「四」に訂正し「三四」となる。

(6)二十七丁ゥニ行目

— 32 —

(7)二十八丁ウ四行目 書名「長秌詠藻」、冊数「二」を墨字で書入れ。

⑨三十三丁オー行目 8三十丁オ八行目 冊数表示の「二〇」を墨点で消去し「十八」 「自然斉宗祇」に墨字で「家集」を補記。 と訂

(1)三十四丁オウ 黒色罫紙で表裏共に記載なし。

(1)三十七丁オー行目 「異本」と墨字で補記

四三十八丁オ九行目 現行自筆百人一首」の後に 二編 と墨字で補記。

似五十一丁オ二行目 (3)四十丁ゥ七行目 「渓雲聞書」の後に「一名幸隆聞書」と墨字で補記。 家」を朱点で消去。

は五十三丁オ八行目 増井寺」のうち「井寺」を朱点で消 ï 「山井」 と訂

鑄 の頭に〇を付し右に「銭」と墨書。

「月旦衆評泉譜」を朱の棒線で消去、

冊数表示の

「二」を朱点で消去。

切六十四丁オ三行目 (6六十三丁オー行目

は六十四丁オ六行目 鑄錢考」を墨で消去。

四六十八丁オ五行目 (9六十五丁オ八行目 朱墨で「巻九欠」と補 「孔子図鑑」とあり。

(1)六十九丁オ八行目 蜻蛉日記」 を朱の棒線で消去。

23七十八丁ゥ八行目 20六十九丁ゥ七行目 朱墨で「明治廿一年三月八日読極」とあり。 「東歌神楽歌」と墨字で補記。